

『国語表現』授業実践報告

～タブレットの特性を生かして～

生島玲子・鶴町優実・玉田珠明

桐朋女子中学校・高等学校

"Japanese Expression" Class Practice Report-Using the Characteristics of Tablets-

Reiko Shojima, Yumi Tsurumachi, Akemi Tamada

Toho Girls' Junior & Senior High School

キーワード：タブレット、ICT、国語、ロイロノート、高等学校第二学年

一、はじめに

桐朋女子中学校・高等学校では、二〇一九年度（令和元年度）に高等学校第一学年に一人一台のタブレットを導入して以来、順次導入を進め、今年度（令和三年度）は高等学校のすべての学年と、新たに中学第三学年にも一人一台のタブレットを導入している。

現高等学校第二学年（紫の学年）は、タブレットを利用した学習が

今年度で二年目である。国語科では、昨年度もタブレットを用いて現代文や古典の学習を行い、その詳細は昨年度（令和二年度）の桐朋学園女子部研究紀要「タブレットを用いての新たな国語教育―高等学校第一学年・紫・国語授業の実践報告―」に記した通りである。昨年度一年間の学習を経て、当該学年の生徒は、Microsoft Teams（Microsoft社製のグループウェア）やロイロノート・スクール（Lollo社製の授業支援クラウド、以下「ロイロノート」と略称することとする）といったアプリケーションの操作に慣れている状態で今年度を迎えている。

以上の前提のもと、国語科では今年度も、現代文・古典・国語表現の授業でタブレットを利用した学習を展開した。今回ここでは、国語表現の授業でどのようにタブレットを活用したか授業実践をまとめていく。

二、国語表現の授業について

国語表現は、「国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる」（『高等学校学習指導要領』文部科学省 平成二十一年三月）ことを目標として設置された高等学校の選択科目である。本校

においては、第二学年で二単位の自由選択科目として開講している。

今年度は履修者38名を13名、13名、12名の3コースに分け、毎週金曜5・6時間目に授業を行った。各コースは習熟度のなどの差を設けず、全て同じプログラムを実施している。

授業には、教科書（大修館書店『国語表現 改訂版』）、タブレット、国語辞典、筆記用具を持参するよう指示し、次の三つの学習活動を行っている。

(1) 三分間スピーチ

テーマを設定し、全員が同じテーマのスピーチを行う。毎週二名ずつ発表する。発表者は当日までにロイロノートの提出箱に草稿と添付資料（写真等）を提出する。

今年度のテーマは、1「お勧めの本」、2「ある日の出来事」、3「お勧めの優れもの」、4「衝撃」である。

(2) 教科書を中心とした学習

次項で詳述。

(3) 四百字エッセイの執筆

毎週テーマを設定し、全員が同じテーマで執筆する。原稿用紙に手書きさせ、産経新聞「ひこばえ倶楽部」（二十五歳以下を対象とした投稿欄。テーマは自由。毎週月曜日掲載。）に応募している。

また、3コース全員の毎回のエッセイを印刷し、3コースともに配付する、ということが続いた。

※末尾に掲載された13名の実際の新聞記事を紹介。

三、教科書を中心とした学習について

今年度実施した教科書を中心とした学習は、以下の通りである。表1参照。

①自己PR（教科書「第1部表現力を培う 3自己PRと面接 レッスン2効果的な自己PR」）

自身を効果的に宣伝する文章を書き、発表する。

②漢詩の翻訳（教科書「第2部表現を楽しむ 2詩歌を楽しむ 漢詩の翻訳」）

「子夜春歌」（郭震作・テーマは恋愛）、「五月二十日夜夢尹師魯」（梅暁臣作・テーマは友情）のいずれか一つを選び、五七調あるいは七五調に翻訳し、共有する。

③象形文字を説明する文章（教科書「第1部表現力を培う 1書いて伝える レッスン4絵や写真を見て書く」）

象形文字の字形を文章で説明し、その文字を見たことのない相手に伝える。また、共有された文章を読んで字形を再現する。

④小論文「ファストフィッシュ」（教科書「第1部表現力を培う 2小論文・レポート入門」）及び「表現の扉 2小論文を書くために「ファストフィッシュ」）

教科書に掲載されている新聞記事「ファストフィッシュ」（二〇二二年九月一六日読売新聞朝刊）に対する意見文を書く。

⑤川柳の創作（教科書「第2部表現を楽しむ 2詩歌を楽しむ」）

川柳を創作する。また、共有された作品を読んで批評し合う。福岡大学主催第十七回全国高校生川柳コンテストに応募する。

⑥夏季休暇中の課題 短編小説の創作

短編小説を創作する。また、共有された作品を読んで批評し合う(※)。國學院大學・高校生新聞社主催第二十五回全国高校生創作コンテスト短編小説の部に応募する。

※夏季休暇明けの分散登校期間中に、教室にいる生徒と自宅待機の生徒をオンラインでつなぎ、共有された作品を読ませ、感想を口イロノートで提出させた。

⑦人生相談(教科書「第2部表現を楽しむ」11こちら悩みごと相談室)

教科書に掲載されている悩みごと相談に対する回答を書く。また、読売新聞「発言小町」欄に掲載された人生相談(二〇一九年一月二十九日夕刊)に回答を書く。

⑧小論文(教科書「第1部表現力を培う」2小論文・レポート入門) 大学入試の過去問題の小論文を書く。

- i 二〇一六年 早稲田大学スポーツ科学部「運動部の改革について」
- ii 二〇一九年 慶應義塾大学環境情報学部「問題を発見する力」
- iii 二〇一八年 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科「遺伝子検査のあり方」

⑧映画の鑑賞文を書く。

小論文の課題、iii、を終えた後、その課題文章の映画『GATTACA』を3コース同時に鑑賞。鑑賞文を書き、提出。

※末尾に映画の概要と、秀逸な鑑賞後の生徒による文章を紹介。

⑨リーダーズシアター(朗読劇)(教科書「第1部表現力を培う」5

声とコミュニケーション レッスン2リーダーズシアターを開こう)

3〜4人のグループを組み、6分間の朗読劇を行う。グループごとに原作となる作品を選び、脚本を作成し、3コース合同で発表会を行う。

四、コンクール・コンテストへの参加

今年度、国語表現の授業で創作したエッセイ・川柳・短編小説を、次の六つのコンクール・コンテストに応募した。入賞作品は以下の通りである。

コンクール・コンテストの作品紹介は、表2参照。

①第21回高校生フォーラム17歳からのメッセージ 奨励賞「私の青春」

②第17回全国高校生川柳コンクール

- 優秀賞「ワクチンの 接種案内 なつだより」
- 入賞「サイダーに 潮騒を聞く 夏の午後」

※副賞は図書カード、優秀賞3万円、入賞5千円

③第25回全国高校生創作コンテスト短編小説の部

入選 「青のリズム」

④第12回マックス「心のホッチキス・ストーリー」

マックス・U-18大賞（高校生の部）受賞

※副賞は、図書カード1万円とマックス文房具詰め合わせセット

※学校賞受賞・学年全員にホチキスの参加賞

※この課題は、必修の現代文の授業で臨んだ課題である。よって、

第二学年全員がエントリーしているが、受賞した生徒は、国語表

現を履修し、エッセイの練習を重ねている生徒である。

⑤第26回約束（PROMISE）エッセー大賞

※二〇二二年三月十二日現在、未発表

⑥産経新聞 ひこばえ倶楽部（二〇二二年二月末日現在）

5月3日 「笑顔あふれる夏へ 今を全力で」

5月24日 「読書で実感 日々継続の力」

6月7日 「探し物は神に!! 神の探し物は何?」

7月5日 「母の優しさ: 雨の日に思う」

7月26日 「祖母の味求め梅干し初挑戦」

8月9日 「祖母の作る夕飯 至福の寄り道」

8月23日 「空、街、人: 眺め発見の日々」

9月27日 「『嫌いな汗』に意外な役割」

11月22日 「失われた時を『匂いに』求めて」

12月6日 「フィルムで残す未来の思い出」

12月27日 「手放せない教科書は私の相棒」

1月24日 「テレビも父も面白いけど・・・」

2月28日 「毎日芽吹く『笑いのタネ』感謝」

3月21日 「感謝の現し方『ハグ』の意味」

※年間合計14回。掲載での原稿料は、図書カード。

五、今年度の国語表現で目指したものとその成果

国語表現は、ある意味、特殊な科目である。

例えば、書くことに注目すれば、紙媒体でのやりとりはその分量がかなり多くなる一方、話すことに注目すれば、今年度はマスクをしての発表で、スピーチをしたり、リーダーズシアターで演じたりと、まだまだコロナ禍という状況が夏から冬にかけて続いたことを考えると、制限はかなりあったように思う。そこで、物理的には、タブレットを一人一人がもち、ロイノートで提出し、みんなで作品や意見を共有できることによつて、私達指導者側の負担はこれまでとは格段に軽減された。

そのような中、私たち指導者が意識した目標は、生徒個人の活動はこれまで同様に、様々な課題をこなしていきながら、表現法を学び、自分の世界を創造し、わかりやすく他者にアピールすることである。さらに、他者の作品に触れることで、視点を広げ、自分とは違った考

え方を知り、一人では気づかない世界を認識する、など、二単位の授業ではあるが、その時間以上の奥行きをもった時間にすること、を指した。

その成果は、校外のコンクールやコンテストでの受賞、新聞の投稿に掲載されるなど、学校関係者だけでなく、多くの主催団体に認められたり、一人一人が、書いたり話したりという表現を通して、他者にアピールすることに自信をもつて取り組めるようになったと実感している。

加えて、3コースで毎回並みをそろえて、企画し運営できたことも、目標を実現させる上では、大きな要因だったように思う。

六、さいごに〜今後の課題〜

国語表現の指導は俗的な言葉でいえば、手のかかる指導、である。それなりに一人一人の構築した世界と向き合うのであるから、時間も必要であり、よりよくしていくための方向性を生徒たちに伝えることを吟味するのは、やりがいもあると同時に、過酷な作業でもある。そのような科目の性質をふまえて、生徒たちに力をつけさせるために、今後の課題としてあげられることをまとめてみたい。

まず、タブレットをさらに上手く使うこと。指導者側にも生徒にも、時間的、物理的な面で、作業の軽減が必須だからである。

次に、教科書を適切に使用すること。教科書はやはり優れたものである。

どのジャンルにおいても的確な例を提示しており、ないがしろにすべきではないと、実感しているからだ。よって教科書選定は重要である。

また、実践として、大学入試問題へさらに取り組ませること。慶應義塾大学や早稲田大学、東京医科歯科大学などの小論文入試問題へ取り組むことは、自分たちの一年後に実際に取り組む可能性もあるため、真剣な取り組みの姿勢であるからだ。

加えて、可能な限り、校外のコンクールやコンテストにもエントリーさせること。その際は、きちんと指導をしてから、作品を作らせること。「コンクールに応募しますから、つくってみましょう」という言葉だけを投げ、指導をせずに応募しても、受賞には至らないからである。

授業の企画内容を広い範囲で設定し、作品をできるだけ質の高い沢山の目でみてもらうように意識して、よりよいプログラムを組むことが重要である。

最後に、全てのコースで足並みをそろえて、授業の企画運営をする、ということが肝心である。個人の裁量を生かしつつ、大卒のところでは、選択者全員が同じ課題に取り組み、評価され、力をつけていくことが、チームで指導することによって叶えられるのである。その際に全コースでの共有や指示など、様々な指導はタブレットによって可能となり、他コースの友達の作品共有が、たやすく実現できるのはタブレットの恩恵であると実感している。今後もさらに指導の質をあげるべく、研鑽を積みたい。

「表1」教科書を中心とした学習について

③象形文字の字形を文章で説明する			②漢詩の翻訳	①自己PR	
共有された字形の再現を見て、自身の説明が的確であったか振り返る。	共有された文章を読んで字形を再現する。	字形を説明する文章を書く。提出された文章を共有する。	漢詩を、五七調あるいは七五調で翻訳する。提出された作品を共有する。	自己PRを四百字程度で書き、発表する。	学習活動
共有された再現用紙を見て、うまく伝わらなかった部分について振り返るよう伝える。	用紙に字形を書き、撮影してロイロノートに取り込むよう伝える。	その文字を見たことのない人がイメージできるように説明を工夫するよう伝える。	逐語訳にこだわらず、漢詩に込められた心情を自身の言葉で表現するよう伝える。	自身のアピールポイントを聞き手に印象づけるために、折句・四字熟語・キャッチフレーズ等の工夫を用いるよう伝える。	指導上の留意点
ロイロノート	ロイロノート	ロイロノート	ロイロノート	原稿用紙・手書き	提出方法
上手く再現できた文章から、説明の工夫を学習できたか。			漢詩の内容を理解できていたか。五七調、あるいは七五調になっているか。自身の言葉で表現できたか。	折句や四字熟語、キャッチフレーズ等を用い、自身を効果的に宣伝することができたか。	評価基準

⑥短編小説の創作		⑤川柳の創作		④小論文		
共有された作品を読み、批評し合う。	プリントで短編小説の書き方を学習し、自作する。	コンテストに応募する。	共有された作品を読み、口頭で批評し合う。	教科書やコンテストのホームページを読んで川柳について学び、自作する。	「ファストフィッシュ」に対する意見文を書く。	学習活動
登場人物やプロットについて、二百字程度で批評するよう伝える。	原稿用紙十枚以内とし、プロットを熟考してから書くよう伝える。	授業中にコンテストの応募フォームにアクセスさせ、応募させる。	良い点を挙げたり、工夫の余地があれば指摘したりするよう伝える。批評を受けて、句を手直しするよう伝える。	五・七・五で詠むこと、季語は必ずしも必要ではないことを伝える。	字数は四百字程度とし、構成は起承転結の四段落構成で、「転」の段落で必ず予想される反論を取り上げるよう伝える。	指導上の留意点
ロイロノート	ロイロノート	インターネット	/	ロイロノート	原稿用紙・手書き	提出方法
登場人物の設定が、展開に必要な設定になっているか。 プロットが練られているか。				伝えたいことを読み手がイメージできるように詠んでいるか。 表現上の工夫がなされているか。	段落の構成が適切か。 独自の根拠を挙げているか。 信憑性のある根拠を挙げているか。	評価基準
						記事の内容を理解できているか。

⑨朗読劇		⑧小論文		⑦人生相談				
発表会を行い、感想を書く。	原作を選定し、脚本をフォームに入力させる。	佳作を共有し、感想を書く。	小論文を書く。	課題文を読み、テーマに対する情報を口頭で交換する。	新聞に掲載された人生相談に対する回答を書く。	新聞に掲載された人生相談を読む。	教科書に掲載された悩みごとを読む。	学習活動
効果的な声の表現を意識させる。	声で伝えることを意識させて書かせる。	構成や根拠等を参考にしよう伝える。	構成を決めてから書くよう伝える。	偏見や思い込みがある場合には、補足する。	相談者の考え方を肯定する立場や、相談者の経験していないことを既に経験した立場など、立場を明確にして書くよう伝える。	相談の要点、相談者の良い点と問題点、相談者の年齢や相談内容から読み取れる背景を挙げるよう伝える。	相談者の要点、相談者の良い点と問題点、相談者の希望する獣医師という職業がどのような仕事を挙げるよう伝える。	指導上の留意点
ロイロノート	ロイロノート	ロイロノート	ロイロノート		ロイロノート	ロイロノート	ロイロノート	提出方法
登場人物の設定や、心情を表現できたか。	原作や場面の選定が適切であったか。	自身の振り返りができたか。	構成や根拠が適切か。	時事問題に興味を持っているか。			回答に必要な要素をつかめたか。相談者の心情を理解できたか。的確に回答するための情報を準備できたか。立場を明確にして書くことができたか。	評価基準

「表2」応募コンクール等一覧

⑥	⑤	④	③	②	①	
エッセイ	エッセイ	エッセイ	短編小説	川柳	エッセイ	ジャンル
産経新聞ひこばえ倶楽部	第26回約束 (PROMISE) エッセー大賞	第12回マックス「心のホッチキス・ストーリー」	第25回全国高校生創作コンテスト短編小説の部	第17回全国高校生川柳コンクール	第21回高校生フォーラム17歳からのメッセージ	名称
産経新聞社	産経新聞社	マックス株式会社	國學院大學・高校生新聞社	福岡大学	大阪経済大学	主催者
二五歳以下を対象とした投稿欄。字数は四〇〇字。毎週月曜日の朝刊に掲載。	自分への約束、大切な人との約束、未来に向けた約束など、「約束」をテーマにした明るいエッセー。字数は一六〇〇字以内。	テーマは「あなたが今、心にホッチキスしたいこと」。「今の幸せ」「家族の絆」「友だちとの思い出」など、いつまでも心にとどめておきたい思いや出来事「あなただけのホッチキス・ストーリー」を書く。字数は四〇〇字。	文章を書く喜び、ものを創り出す苦しさ、自分の考えを短い文章で言い表す難しさおよび、できた時の達成感などを、全国の高校生に味わってもらうことが目的。短編小説の字数は四〇〇〇字以内。	若い世代にわが国固有の短詩形文学に親しんでもらい、文化振興を図ることが目的。川柳を通して、日頃感じていること、考えていること、社会に対するメッセージ等を自由に表現する。	テーマは(1)今までの自分、これからの自分(2)世界とつながる自分(3)私たちが考えること、できること(3)今、これだけは言いたい！(自由課題)のいずれか。字数は四〇〇〇〜六〇〇〇字。	概要等

テレビも父も面白いけど…

高校生 田中千聖 17

私は父といるときに温度差を感じる事があ
る。とくにテレビを見ているときがそうだ。

例えば、プロ野球の試合を見ているとき、圧巻
のプレーや得点した場面で、私はすごいなと思
いながら静かに楽しんでいる。すごいプレーのとき
ほど圧倒されて言葉が出ないのだ。

父の場合は正反対だ。大声を出して、一つ一つ
のプレーに毎回反応し、その試合の解説を始め
る。

ドラマも、私と母は感情移入しながら静かに見
ている。父はというと、テレビの中に入り込んで
ドラマの登場人物と会話しているかのように、ツ
ッコミながら見ている。しまいには先の展開を聞
いてくる。そんなのまだ分からないのに。

私と母がテレビを見るときは、テレビと会話す
る父のことも一緒に見なければならぬ。かなり
疲れるが、最近では面白く感じてきた。ただ、やは
りもう少し静かに見られないものだろうか。

私の母には、どうやって
身に付けたのかと思う、神
の能力があります。それ
は、探し物の場所を知っ
ていることです。
例えば、私がノートを探
して居ると、「そのファイ
ルの下でしょ」と、母が見
たこともない私のノートの
ありかを言い当てます。
わが家ではこれを「神の
助け」と呼んでいます。神
の助けを借りたときは、血
洗いや洗濯物干しなどの家
事をして恩返しをします。
恩返しの内容は「神の注

探し物は神に!! 神の探し物は?

高校生 辻村結衣子 16

文」で、母から命合されま
す。断ると二度と神の助け
を借りることができなくな
るので逆らえません。
しかし、そんな神も、自
分の探し物はみつける能力
は低く、頭の上に載せてい
る眼鏡を10分近く探した
り、湯飲み茶碗を棚の奥に
しまったことを忘れて「湯
飲み茶碗が消えた」と騒い
だりします。
頼りになるところも、少
し抜けているところも、母
らしくて最高です。
(東京都調布市)

友人に、「まだ持っている
の? 捨てないの?」とい
われるものがある。使わな
くなった教科書だ。周りの
友人は、さっさと捨ててし
まうらしい。
なぜ捨てないのかと聞か
れるが、私は逆に、なぜ捨
てることができるのか分か
らない。教科書は学習の
基礎だ。すなわち、分から
ないことがあったとき、教
科書が理解への糸口となる
可能性が高い。にもかかわ
らず、教科書は再入手がな
かなか難しい。

手放せない教科書は私の相棒

高校生 鈴木晶子 17

こうした点を踏まえる
と、私はどうしても教科書
を手放すことができない。
そうはいっても、私の部
屋のスペースには限りがあ
るので、さすがに減らそう
と思ひ、古い教科書を手
に取った。すると、つい読ん
でしまい、その教科書で勉
強していたころの思い出が
脳裏をよぎる。夢中になっ
て読んでしまった。
結局私は教科書を手放す
ことができません。部屋は狭く
なるばかりだ。
(東京都調布市)

私の選択しているある授
業では、毎回1つのテーマ
を指示され、エッセーを書
く。これはあるテーマを指
示された日の友人2人との
やりとりである。私「今日
のテーマは最近笑ったこと
なんだ」友人1「それは難
しいね」友人2「毎日笑っ
てるもんね」
この会話をしながらも私
たちは笑っている。3人で
いる時間は常に笑っている
から最近なんてない、とい
う結論になったのである。
ただ、私が毎日笑えてい

毎日芽吹く「笑いのタネ」感謝

高校生 山田菜穂 16

るのは高校生になってから
の話だ。中学生の頃は笑わ
ない毎日だった。新しいな
会いを毎日、私は不器用さ
そのままだに心だけ変わるこ
とができた。つらかった中
学3年間も今では「笑いの
タネ」になり「笑いの花」
を咲かせてきている。
明日も明後日も「笑いの
タネ」は芽吹いて「笑いの
花」を咲かせてくれるたろ
う。枯れることはない。こ
うの語がまた「笑いのタネ」
だ。
(東京都調布市)

言葉とハグで感謝を表す文化

高校生 三浦千尋 17

相手に感謝したいとき、私は「ありがとう」と口で言うだけでなく、ハグをする。これは、私がアメリカに住んでいるときに身に付いた習慣だ。日本ではハグをするのは恋人同士ぐらいで、あまりハグはしない。

一方、アメリカでは、初めて出会った人にあいさつをするとき、握手やハグをする。こうした行動をすることによって、相手を安心させることができるからだ。

アメリカから日本に帰国したとき、私は「日本ではなぜハグをする人が少ないのだろう」と思った。

日本にいても私は感謝をするときはその人をハグし、「ありがとう」と言う。感謝したい相手に、言葉では言い切れないほどありがたいことを伝えたいからだ。

日本では感謝をするときにハグではなく、おじぎをする人が多いように思う。文化の違いは面白い。

(東京都世田谷区)

談話室

人間の記憶は、五感の中で最も脆弱で、最も早く消滅する。後には記憶の断片だけが残る。思い出は、思い出の断片の集合体。思い出は、思い出の断片の集合体。思い出は、思い出の断片の集合体。

失われた時を「匂い」に求めて

高校生 久保田亜衣 17

「匂い」は記憶の鍵。失われた時を「匂い」に求めて。失われた時を「匂い」に求めて。失われた時を「匂い」に求めて。失われた時を「匂い」に求めて。

(東京都世田谷区)

談話室

この春、毎晩読書。読書は、毎晩読書。読書は、毎晩読書。読書は、毎晩読書。読書は、毎晩読書。

読書で実感 日々、継続の力

高校生 近藤之恵 16

読書は、毎晩読書。読書は、毎晩読書。読書は、毎晩読書。読書は、毎晩読書。読書は、毎晩読書。

(東京都世田谷区)

「祖母」の思い出。祖母の思い出。祖母の思い出。祖母の思い出。祖母の思い出。

祖母の作る夕飯 至福の寄り道

高校生 板倉実侖 17

祖母の作る夕飯。祖母の作る夕飯。祖母の作る夕飯。祖母の作る夕飯。祖母の作る夕飯。

(東京都世田谷区)

祖母の味求め梅干し初挑戦

高校生 加藤早咲 16

私は昔から祖母が作る梅干しが大好きだ。祖母の味を求めて。祖母の味を求めて。祖母の味を求めて。祖母の味を求めて。

(東京都杉並区)

空、街、人…眺め発見の日々

高校生 新井祐子 17

私は景色を眺めるのが好きだ。小さい頃は、人の目を気にすることもなく、電車などではかまわず眺めていた。空、街、人…眺め発見の日々。

(東京都調布市)

フィルムで残す未来の思い出

高校生 濱中玲那 17

フィルムで残す未来の思い出。フィルムで残す未来の思い出。フィルムで残す未来の思い出。フィルムで残す未来の思い出。

(東京都東区)

笑顔あふれる夏へ今を全力で

高校生 板垣ころこ 17

笑顔あふれる夏へ今を全力で。笑顔あふれる夏へ今を全力で。笑顔あふれる夏へ今を全力で。笑顔あふれる夏へ今を全力で。

(東京都練馬区)

母の優しさ…雨の日と思う

高校生 岩野蓮佳 16

母の優しさ…雨の日と思う。母の優しさ…雨の日と思う。母の優しさ…雨の日と思う。母の優しさ…雨の日と思う。

(東京都新橋区)

「嫌いな汗」に意外な役割

高校生 堀屋真哉 17

「嫌いな汗」に意外な役割。嫌いな汗に意外な役割。嫌いな汗に意外な役割。嫌いな汗に意外な役割。

(東京都調布市)

創作コンテスト入選作品「青のリズム」桐朋女子高等学校 二年 田中 千聖

一つことに熱くなる。何かに熱中する。これは決して簡単なことではない。だって、何か熱中できるものが見つければいいけれど、それがあることって当たり前ではないから。でもそのきっかけは意外と身近にあるのかもしれない。

高校一年生の夏、僕は夢中になれるものに出会った。遡ること3か月。僕は晴れて高校生になった。クラスでは特に目立たず、いつも一人。これと言って取柄もなく、部活にも入っていない。別にクラスで浮いているという訳ではない。小学生の頃から気づいたら一人である。まあ、大人数は苦手だし、特に不自由もしていないためこれでいいと思ってきた。甲子園にインターハイ、文化祭に体育祭、高校はこういったものが充実していて様々な行事に力を入れているイメージがあったが、僕は特に楽しみにしていることはない。部活や委員会、何かに一生懸命頑張っている人のことは素直にかっこいいと思うし、自分も部活に挑戦してみようとも考えた。しかし、少し興味を持ってもなかなか入部する気になれない。僕の名前は「翔」と書いて「カケル」と読む。両親が「空を翔けるように成長し、何事にも挑戦して夢を切り開いていけますように」という思いでつけてくれたらしいが、どうもピンとこない。そりゃそうだ。その真逆のような人生を送っているのだから。顔も存在もバツとしない、どう考えても名前負けしている。母よ、なぜこんなにも夢のあるかっこいい名前を僕なんかにつけたのだ。同じクラスに文武両道で顔もそこそこいけている人気者の翔琉くんがいる。みんな分かるよ、分かる。なんでこんな僕が翔なんだってね。

そんな僕にも好きなことがある。それは音楽だ。聴いていることも好きだが、ダンスも好きだ。かっこよく踊る人のダンスを見ているのは本当に楽しい。僕もあんな風に踊れるようになってみたいと思う。でも、今更ダンス部に入部する勇気もない。女子ばかりだし。一人で楽しんでいるだけで十分だ。だから僕は毎日、放課後に河川敷の橋の下で踊っている。

今日もここで踊っている。最近振り入れを始めた新曲の中に僕が初めて見る難しいステップがある。なかなか攻略できず、何度も繰り返し踊っていると横に気配を感じた。隣のクラスの実登(マナト)だった。僕の隣で何も言わずに同じダンスを踊り始めた。僕が苦戦していたステップを教えてくれたのだが、終わったらさっさと帰ってしまった。次の日の学校でも特に会話することはなく、一日が終わった。実登は秀才で顔も良く、運動もまあまあできるが、いつも一人でいる。よく図書館で本を読んでいる姿を見かける。その日以降、実登は毎日踊りに来るようになった。少しずつ会話も増え、僕たちは仲の良い友達としてつるむようになった。実登と下校し、橋の下で踊って、馬鹿話して、たまに勉強も教えてもらう。気づくとそんな日々を送っていた。真面目で無口で他人に興味がないと思っていたが、話してみたら結構面白くてよく笑うし、ダンスがあんなに上手いなんて思っていなかった。小学校からダンスを習っていたらしい。どうやら図書館で読んでいた本は参考書や何だかよく分からない難しそうなお本ではなく、R&Bやジャズ、コンテンポラリーなどダンスや音楽についての本だったようだ。

ある日僕は、今まで感じていた悩みを真登に打ち明けてみた。

「僕は、何かに一生懸命になったり熱くなったことがなくダンスは趣味として少しかじっただけ。部活にも入っていないからクラスでは目立たず学校行事も楽しんでこなかった。何かに挑戦してみたいがどうしたら良いか分からない。」すると後ろから一人のおじいちゃんに声を掛けられた。

「学生生活をしまないのはもったいない。それに実際毎日楽しそうに踊っていたではないか。」

そのおじいちゃんは毎日夕方になるとこの河川敷を散歩しているようで、僕たちがここで踊っている姿を見ていたらしい。そう言われて初めて気づいた。そっか、毎日ダンスを覚えることに必死だったんだ。翌日、実登が珍しく真剣な顔で話しかけてきた。

「翔、毎年この町で10月に行われているダンスコンテスト知ってる？これに俺たち参加してみないか？」と言ってチラシを渡された。

「翔も気づいただろ。自分たちがダンスに熱くなっていたことに。」

「うん。確かに目指すものがあるってなんか嬉しいな。」そんな話をして僕たちはコンテストの参加を決めた。学校も夏休みに入り、朝から練習するようになった。コレオは真登が一から考えてくれている。今までは既存のものを真似してダンスを楽しんでいたが、やるからには一生懸命、自分たちの作品を届けたいということでオリジナルの作品を作ることにしたのだ。練習に明け暮れていると声を掛けられた。あの時のおじいちゃんだった。

「最近新しいものを踊っているね。」

「お久しぶりです。先日はありがとうございました。僕たちコンテストに参加することを決めました。」その日からおじいちゃんをよく話しかけてくれる。たまにアイスも買ってきてくれる。

夏休み三週目。おじいちゃんが僕たちに相談があると言う。

「二人の頑張っている姿を見ていたら私も一緒に頑張りたいと思った。参加させていただけないだろうか。」真登と僕は驚きのあまり固まった。でも二人の中で答えは一つだった。次の日から僕たちはおじいちゃんにこれまでできていた振りを教え始めた。すると驚くことにリズム感が良く、どんどん上達していく。何なんだ、この身のこなしは。60代とは思えない。わけがわからないが、とにかく毎日楽しい。

9月、遂に3分30秒のコレオグラフが完成し、学校も始まった。あとは残り的一か月、とにかく踊り込んでスキルを上げるのみだ。クラスでは相変わらず一人だが、変わったことが一つ。お弁当を真登と屋上で食べるようになった。この時間がたまらなく楽しい。おじいちゃんの凄い話や真登の好きなマイケルジャクソンの話など話題が尽きない。そんなこんなであつという間にコンテスト当日の朝を迎える。三人でいつもの河川敷に集まり、会場へ向かう。出場者のリストには翔のクラスの人気者たちの名前も載っていた。どおりでロビーで教室で聞く声がある。知っている人を見ると緊張が増してくる。なぜか妙に落ち着いているのがおじいちゃん。何で緊張しないのか聞いてみると、

「なんか懐かしい。」の一言だった。僕たちよりも先にクラスメイトが発表を終え、会場は大盛り上がり。いよいよ出番を迎え、僕たちはステージに向かう。会場がざわつく。そりゃそうだ。今までクラスで一人で過ごし、目立たなかった真登と僕、そして年の離れたおじいちゃん。同じ学校の人も審査員も会場全員の目が点になっている。でも大丈夫。僕は練習してきたことをやるだけだ。二人がいれば大丈夫。そう言い聞かせて目を閉じる。トラックが流れ、僕たち三人のパフォーマンスが始まった。さっきまでの緊張を忘れ、身体が音楽に乗って勝手に動く。会場もみんなが手拍子してくれている。3分30秒を踊り終え、ステージからはける。楽しさと達成感とで興奮が冷めない。何だこの気持ちは。初めての感覚だ。審査の結果、入賞はできなかったが、新感覚のダンスで観客を魅了したということで特別賞というものをもらった。僕たちの前に発表していたクラスメイトは入賞していたが、舞台裏で一緒に踊りたくなるくらい楽しかったし、凄かったと言ってくれた。

翌日から学校の空気が少し変わった。普段前髪を下ろしていて気づかれていなかったようだが、コンテストで前髪を上げてかっこよく踊っていた真登はイケメンだと言われて人が集まるようになった。僕は僕でそんな一面があったんだね、もっと話してみたいと言われてだんだんクラスに馴染めるようになった。僕は二人から大事なものをもらったなと思った。言葉では表せないけれど。

あれから一年半。高三になった僕と真登はダンスの春季大会で優勝した。僕たちは高校三年間をダンスに費やした。そのきっかけくれたのはあの時のおじいちゃん。でもおじいちゃんはいない。二ヶ月前に亡くなった。後になって聞いた話だが、おじいちゃんは若い頃、有名な指揮者だったそうだ。コンサートだけでなく、ダンスやミュージカル、大きな舞台で指揮をしてきたそうだ。だからだろう。リズム感が良かったこともコンテストの本番であまり緊張していなかったのも納得できる。悲しさと寂しさが涙が溢れる。それでも僕たちは空を見上げて言うんだ。「おじいちゃんありがとう。」

僕は高一の夏に二人の友達に出会った。夢中になれるものがあること、何かに熱くなれること、これは幸せなことだ。それを見つけるのは難しいようで、意外と身近にあった。難しいのは挑戦することだ。でも僕は一歩踏み出すことができた。それも友達二人がいたからだ。だから僕は、これからも音に乗って挑戦し続ける。見ていてね。

小論文課題「2018 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科 小論文課題 “遺伝子検査のあり方”」に取り組んだ後、課題文の内容に取り上げられていた映画『GATTACA』（1997年アメリカ近未来を予言するスタイリッシュ・SFサスペンス）を鑑賞。映画の概略と、生徒の鑑賞（感想）文

国語表現 小論文課題 「ガタカ」の世界

2018年東京医科歯科大学 医学部保健衛生学科

本文の文章を読み、後の設問に答えなさい。

近未来をリアルに描いた有名なSF映画に、『ガタカ GATTACA』（一九九七年作品、アンドリュース・ニコル監督、主な出演はイーサン・ホーク、ジュード・ロウ）があります。

舞台は「健康で優れた遺伝子」を選んで人工生殖することになった人々と、自然生殖がもたらした野蠻なものとみなされて、個人の遺伝情報が自動的にチェックされ管理されるようになった社会。そこであえて親の意思により遺伝子者ではなく神の手によって「愛の結晶」として生まれた主人公は、家の定まらざる運命的な欠点があり、次に「適正な生殖」で生まれた弟との差をいとも身に沁みながら成長します。しかし彼にはある野望があり、努力に努力を重ね、違法なことをしてまでもその志を成し遂げようとし、その過程で、運命的には完全と目せられながら、その期待を実現できなかつた失意の男と出会い、よたりの人生が交錯します。ネタバレさせては興ざめであるので、彼らのどんな人生がどのように描かれたのか、くわしいことは書きませんが、いやがうえにも遺伝子が人生にどのような意味をもたらすのかについて深く考えさせられる名作です。

印象的なシーンだけ紹介しましょう。まず主人公の出産の場面です。赤ちゃんと一滴の血液が採取され、その場ですでに遺伝子検査が行われます。両親が聞き耳を立てるなか、コンピュータが自動的に打ち出した検査結果を看護婦が淡々と読み上げます。「精神疾患の発生率60%、障うつ病42%、ADHD89%心臓疾患……」（ここで初めて看護婦は少しハッとしたり表情をして）「99%……。早死の可能性があります。推定寿命は30歳。」

ワインセントと名付けられたこの子どもを、両親は愛情深く育てます。しかしすでにいるいるな健康上の問題や差別を味わされ、次の子の「生殖」にあたってはその時代の「自然」な仕方をもはや当然のこととして受け入れます。その場もこの映画は上手に描いています。近未来的なイメージの清潔な医務室の中で、コンピュータスクリーンに映し出されたひとつの受精卵を前に、誠実に慈愛深そうな黒人の医師が、両親と話をします。

医師 健康な男子と女子が二人ずつ残っています。遺伝性疾患の要因はなし。あとは選ぶだけです。まず性別から……。ご希望は？

母親 弟を作りたいんです。ワインセントの遊び相手……。
医師 いいですね。胎で無邪気に遊ぶワインセントに向かっ親しげにやあ、ワインセント。
ワインセント（無邪気な笑顔で、しかし弱々しく）はい。

医師（眼鏡をのみながら）希望は……。薄茶色の目と黒髪と、白い肌……。ですな。（二）やかな笑顔で有害な要素は排除しました。髪、近視、酒その他の依存症、暴力性、肥満……。
母親（やや困惑の表情で父親と目くばせしながら）もちろん病気が困りますが……。

父親（母親の言葉を引き継ぐように）ある程度、運命に任せざるべきでは？
医師（やさしく説き伏せるように）お子さんに幸せなスタートをさせたいのでしよう？ までになんらかの不完全でも持ちあわせているはずですから。ここで画面は一瞬ワインセントの方に視線を向ける母親を映し出す（八）は無用です。お二人の子どもです。しかも最高の。何千人に一人の傑作です。

これは荒唐無稽な設定ではありません。遺伝子検査は、すでに断片的な形ではありますがビジネスの形で日常の中に入ってきました。アメリカでは23アンドミー、ナビジエニス、デコードといった会社がたぐくさんの形質について遺伝子検査を行っています。

（中略）
日本でもインターネット上に、肥満や美容のための遺伝子検査を謳う会社がサービスを開始しています。二〇一〇年には、あとで詳しくお話しするように、能力や性格の遺伝子検査を行う会社までも参入してきました。「ガタカ」の世界は、確実にすぐそこまで迫っています。

こんにち地球上のほとんどの生物は、親から子どもに遺伝子を受け渡される際、両親それぞれがもつ二つ一組になった遺伝子（対立遺伝子）のうち、パパ抜きのように、そのどちらか一方の遺伝子を受け継ぎます。こうして父親からと母親からの半分ずつの遺伝子が組み合わさって、新しい組み合わせの遺伝子型が「セット」形作られる。そのセットが子どもに遺伝的個性を作り上げるわけです。

このとき、親の持つ対立遺伝子のどちらが伝わるかは、まったくの偶然、ワインセントの父親のいうように「運命の手」によります。もともと地球上の生物は、自分の遺伝子のみをみることも触ることも、ましてや遊ぶこともできませんでした。ところが人間はそれを「できる」ようにする知識と技術を手に入れている。これはどのようにして可能になるのでしょうか。

なにごとにも、それを「知る」ことから始まります。それが「研究のレベル」です。そもそも知能や性格や精神疾患は遺伝するのか、それを確かめなければ話は始まりません。それを行っているのがふたご研究です。

それによって遺伝子が関わっていることがわかると、つぎにするのは遺伝子の所在をつきとめることです。ここからは分子生物学の世界に入ります。

（安藤寿康著「遺伝子の不都合な真実」二〇一二年より）

※現在は「看護師」の名称であるが、原文のまま表記した。

設問1 傍線部分の「ガタカ」の世界とは、どのようなのか、説明しなさい（六〇字以内）。
設問2 文中で印象的なシーンとして紹介されている場面を参考に、今後の遺伝子検査のあり方に關して、あなたの考えを論じなさい（五〇〇字以内）。

【課題作成・映画※『GATTACA』視聴を終えて、生徒による映画鑑賞文】

映画を見る前までは、遺伝子検査は病気の可能性を知ることができる為、幅広く利用されるべきものだと考えていました。しかし、序盤のヴィンセントが両親に寿命は長くないから夢は諦めろと言われたシーンを見て、遺伝子検査で寿命が分かっているせいで可能性が閉ざされてしまうのならば、遺伝子検査は不要な存在であると思いました。その上で、その不利な状況から努力を重ね、適合者と同じほどの実力を身につけたヴィンセントの志に感化されました。

また、刑事の疑いからヴィンセントを守るために、動かぬ足を必死に引き摺り、手に力を込めて少しずつ階段を上っていく姿や、そのことに気づいたヴィンセントに対し、「実は歩けるんだ」と冗談を言うジェロームに対し、頑張りをもっと褒めてあげたいような愛おしさを感じました。

そして、最後のジェロームが亡くなるシーンでは、2人にはこの先も支え合って生きてほしいと願っていたため、とても辛くなりましたが、自分の存在を消して、ヴィンセントにジェロームという存在を託したジェロームの想いに胸が打たれました。

重い題材の映画と勝手に想像していたため、実際はその想像とは異なり、非常に感動する作品で涙が溢れそうになりました。今回観賞する機会を設けてもらえて、良かったです。

2021/12/10

※『GATTACA』1997・アメリカ。監督は、アンドリュウ・ニコル。出演は、イーサン・ホーク、ユア・サーマン、ジュード・ロウ 他。

リーダーズシアター発表会感想記入用紙

①最も良い作品について

「令和のラプンツェル」

優れていた点：原作の設定を活かしつつ、登場人物の関係性が複雑になりすぎることなくアレンジできている脚本だった。また1人1人の演技がよくできていたため、他の班でいくつか見られたような、誰か1人が目立ちすぎてしまうといった傾向も比較的少なかったと思う。

②自分のグループの作品について

良かった点：タイトルや登場人物の設定など、脚本作りの話し合いを沢山重ねたので、自分たちの個性が出た脚本に仕上げられた。

反省すべき点：脚本作りに時間をかけるあまり、修正を加えた後など練習時間を多くはとれていなかったため、本番で手間取ってしまった。

③リーダーズシアターを実際に行ってみて、脚本づくり・声の表現・演出等について、学んだこと・重要だと思ったことを書きましょう。

ナレーターのリセリフが多すぎると『説明している』という雰囲気が強くなってしまいが、逆に少なすぎてうまく場面の転換などが伝わらなくなってしまう難しさを感じた。特に自分が聞き手にまわった時、設定が複雑なものほど、折角の内容を楽しむよりも状況を理解する方に必死になってしまうことに気づいた。そこで後から自分の班の脚本を読んでも、聞き手には分かりづらかったかもしれない箇所がいくつか見つかった。

また、人数の関係上複数の役を演じている班が自分たちも含めて何班もあったが、それでも内容が分かりやすかった班は、やはり声のトーンや喋り方に変化を出せていたと思う。さらに上手だった班の特徴として、全く性格の異なる登場人物を1人の人に割り振っていたことにも気づいた。1人2役以上を演じる場合は、敢えて喋り方が大きく異なる登場人物を采配することもポイントになるのかもしれないと感じた。